



射水市立大門小学校 学校だより 2月

三輪の結

大門っ子

第17号

令和6年2月6日

充実感たっぷり6年スキー学習!



今シーズン最強寒波が襲来し、開催が危ぶまれましたが、1月26日(金)に6年生が5年振りとなるスキー学習を行いました。学校を出発しタカンボースキー場へ向かいました。到着すると小雪が舞い、雪も十分に積もっており絶好のスキー日和となりました。

バスから降りて荷物を整理し、どんぐりの館内で開講式を行いました。児童代表が元氣よく挨拶しました。そして、指導員の先生方が紹介されました。開講式後、班に分かれ、それぞれ指導員の先生に従って講習を開始しました。初めてスキーをする子供たちが多く、まずスキー靴の履き方から指導員の先生に教えていただきました。

初心・初級班は、準備運動をした後、スキーに慣れるため、平地で片足に板を履き、歩く練習をしました。できるようになったら緩やかな坂を使って、滑る、止まるに挑戦しました。中・上級班は、緩斜面を滑りスキー操作を確認してからリフトに乗って上がりました。子供たちは指導員の先生の話をよく聞き、安全に気を付けて滑っていました。

昼は班ごとに美味しいカレーを食べて、力を回復し、午後の講習に臨みました。みるみる上達し、初心・初級班の子供たちの中に初めてリフトに乗れた子もいました。緩やかな林間コースをととても楽しそうに滑っていました。互いに声を掛け合い、協力して活動する、普段の学校生活では見られない姿に感銘を受けました。「行事は子供を育てる」のだと改めて強く思いました。子供たちは閉講式を終え、元気に学校へ帰ってきました。

大きなけがもなく、スキー学習を無事に終えることができほっとしました。子供たちの楽しそうな様子を見て、「富山に生まれたからにはスキーを体験する」のはいいことだと改めて感じました。スキー学習を終えた子供たちは、「丁寧に教えてくださったり、上手くできなかつたときには声をかけてくださったりしたおかげで上手にできるようになりました」(U児)「上手、うまいと言ってくれたおかげで、自信がついて、スキーが好きになりました」(T児)「初めてのスキーで不安でしたが、先生のおかげで雪の上を滑り、自然を味わえるスキーの楽しさを感じることができました。本当にありがとうございました」(A児)など嬉しそうに話してくれました。「ふるさと富山」の素晴らしい情景・思い出を大人になっても、どこにいても忘れないでほしいです。



科学に親しむ「きらめきエンジニア事業」



富山県では、児童・生徒の理科に対する関心を高めることを目的に、富山県立大学等の先生や研究者が講師として、県内の小学校や中学校などに出向き、科学の実験・観察や講義を行う「出前科学授業（きらめきエンジニア事業）」を実施しています。この機会を活用し、1月11日（木）、12日（金）の2日間に渡って、5年生対象に理科「ものの溶け方」の授業を富山県立大学教授 中島 範行 先生に行っていただきました。

導入では、始めに3gの塩化ナトリウムと塩化アンモニウムが入った2本の試験管が子供たちに配られました。その正体は明かされてません。そして先生は「メスシリンダーに5ml水を測ってください。そして、水を入れて、溶かしてください。その様子を観察しましょう」と説明されました。「ただし、先生に『これで5mlですか』と聞かれても答えないですよ。自分で工夫してやってみてください」と投げかけられました。子供たちは机上にあるビーカーやスポイトを駆使して自分なりに5mlの水を測り取り、試験管に移して割り箸でかき混ぜました。中島先生の授業は一貫して、子供の自主性と創意工夫を大切にしています。手取り足取り何でも教えるのではなく、子供の科学的な思考を促すよう手立てがたくさん取り入られているのにとっても感心させられました。

授業の最後には、水を温めたり冷やしたり、そして水の量を増やしたりして、2つの固体の正体を明らかにしました。授業を受けた子供たちは、

「塩化アンモニウムが溶けていた水を冷やすと、溶けていた物が雪のように固まってとてもびっくりしました」（N児）

「先生の解説が分かりやすく、実験がとても楽しかった。塩化ナトリウムや塩化アンモニウムの性質がよく分かり、とてもためになった」（K児）

「難しい実験だからこそ、実験の結果が出たときはいつもよりうれしかった。中学校の学習が楽しみになった」（T児）

「塩化ナトリウムは水を温めても水に溶けないが、水の量を増やすと溶けるようになるし、塩化アンモニウムは温めるだけで溶けるので、物質は不思議だと思った」（O児）と感想を述べました。

科学に興味をもった子供たちの中から、将来、素晴らしい発見や発明をする、立派な科学者が生まれるかもしれません。楽しみですね。

1月1日、令和6年能登半島地震が起きてから1ヶ月が経ちました。亡くなった方は2月3日現在で240名、未だ行方が分からない方が13名と痛ましい限りです。家屋倒壊、火災、地盤沈下、液状化現象と様々な事態を招き、家を失いふるさとを失い、避難生活を続けている被災者の方々の心中を察すると言葉もありません。

被災地の1日でも早い復興を願うばかりです。



（校長 阿尾 昌 樹）